

研修方法

現場での教育(OJT)、集合研修(Off-JT)、自己学習を適切な形で組み合わせる。講義形式のものに関しては、通信教育やe-ラーニング研修などのITを活用した方法もある。また、Off-JT OJT OJT Off-JTのスパイラル学習は効果があると言われていたことから、Off-JTとOJTは研修目標に合わせて組み合わせることが適当である。

研修評価

【評価の考え方】

新人看護職員の評価は、修得してきたことの確認をするとともに、フィードバックを行い、新人看護職員が自信を持って一歩ずつ能力を獲得していくために行うものである。評価者は、新人看護職員と一緒に考え、励ます姿勢で評価を行う。

【評価方法】

評価は、自己評価に加え実地指導者や教育担当者による他者評価を取り入れる。評価には、到達目標に関するチェックリストなどの評価表(自己評価及び他者評価)を用いることとし、総合的な評価を行うにあたっては面談等も適宜取り入れる。評価は、その時にできない事を次に出来るようにするためのものであり、基本的にはポジティブフィードバックを行う。例えば、技術が出来たか、出来なかったかのみを評価するのではなく、次の行為につながるように出来たことを褒め、強みを確認し励ますような評価を行う。最終評価は、看護部門の教育担当者又は各部署の所属長が行う。また、新人看護職員研修終了時には、所属部署や施設単位で修了証を発行するなどの方法もある。

研修プログラムの例

研修項目	方法	時間	4月(入職時)～数日間	4月～6月	7～9月	10～3月
1.新人看護師研修の概要	講義	1時間	目標と計画 研修手帳の活用方法			
2.看護師として必要な基本姿勢と態度	講義・演習	3時間	患者の権利と看護者の義務 看護者の倫理綱領 接遇			・実践の振り返り
3.技術的側面	清潔・衣生活援助 技術 創傷管理技術	講義・演習	6時間		・スキンケア	・褥瘡の予防・リスク アセスメント、体圧分散等
	与薬の技術	講義・演習	6時間		・皮下注射、筋肉内注射 ・点滴管理、薬剤準備、ボ トル交換、挿入部の固定、輸 液量の計算等 ・輸液ポンプ、シリンジポン プの使い方	・点滴静脈内注射 ・薬剤等の管理(毒薬、劇 薬、麻薬、血液製剤を含む)
	救命救急処置技術	講義・演習	4時間		・急変時の対応、チームメ ンバーへの応援要請等 BLS/AED	
	症状・生体機能管 理技術	講義・演習	6時間		・静脈血採血	・フィジカルアセスメント ・心電図モニター
	感染防止の技術	講義・演習	2時間		・スタンダードプリコーション の実施	
その他配属部署で 必要な看護技術	OJT		配属部署で必要な看護技術			
4.管理的側面	安全管理 災害・防災管理	講義・演習	3時間	医療安全対策、組織の体制、 職員を守る体制、事故防止 策、発生時の対応等 消火設備		
	情報管理	講義・演習	3時間	個人情報保護	・診療情報の取り扱い ・記録	
研修の振り返り フォローアップ		1時間		・振り返り	・振り返り	・振り返り



新人看護職員研修ガイドライン

はじめに

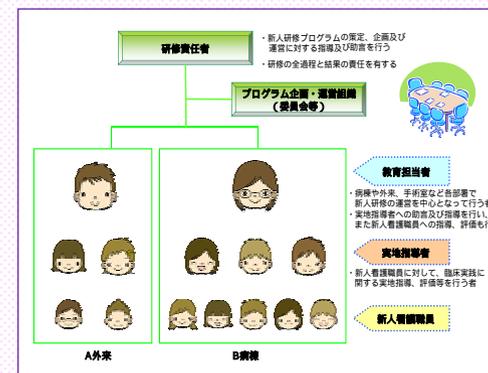
本ガイドラインは、新人看護職員が基本的な臨床実践能力を獲得するための研修として、医療機関の機能や規模にかかわらず新人看護職員を迎えるすべての医療機関で研修を実施することができる体制の整備を目指して作成されました。

新人看護職員研修ガイドラインの基本的な考え方

【新人看護職員研修の理念】

看護は人間の生命に深く関わる職業であり、患者の生命、人格及び人権を尊重することを基本とし、生涯にわたって研鑽されるべきものである。新人看護職員研修は、看護実践の基礎を形成するものとして、重要な意義を有する。新人看護職員を支えるためには、周囲のスタッフだけではなく、全職員が新人看護職員に関心を持ち、皆で育てるという組織文化の醸成が重要である。この新人看護職員研修ガイドラインでは、新人看護職員を支援し、周りの全職員が共に支え合い、成長することを目指す。

研修体制における組織例



【研修体制について】

支援する体制として、実地指導者、教育担当者、研修責任者、プログラム企画・運営組織を組織することが必要であるとしています。専任・兼任や人数の配置は組織により異なりますが、それぞれの役割が明確であることが求められています。

【新人看護職員を支える体制の構築】

新人看護職員が臨床現場に順応し、臨床実践能力を獲得するためには、根気強くあたたかい支援が必要である。また、新人看護職員の不安を緩和するために、職場適応のサポートやメンタルサポート等の体制づくりが必要である。そのためには、新人を周りで支えるための様々な役割をもつ人員の体制づくりが必要である。

厚生労働省では、新人看護職員研修ガイドラインに基づいた新人看護職員研修の普及を推進しています。新人看護職員研修に関する情報は、厚生労働省ホームページをご覧ください。 <http://www.mhlw.go.jp/>